

介護サービス基盤整備の目標の算出方法について

1. 介護サービス基盤整備の目標の算出

(特別養護老人ホーム入所申込者数及び各事業種別の入所者数は令和5年4月1日現在の実績値を使用)

【特別養護老人ホーム】

①調査結果から推計される入所申込者数

特別養護老人ホーム入所申込者 1,210人	要介護1,2の特例入所 以外の方：64人
入所要件満たす方 1,146人 (要介護1,2の特例入所要件該当+要介護3~5)	

②早期入所希望者数

特養に早期入所 希望 204人	将来的に特養を 希望 394人	他施設でも良い 548人
--------------------	--------------------	-----------------

③令和5年度時点での必要な床数

早期入所希望者が入所するために必要な床数

204床	←	現に利用している床数 4,877床	高年齢人口の増加に伴い必要と 見込まれる床数 (R5年度からR8年度までの増加分)
令和5年度時点での必要な床数 5,081床			

④令和8年度時点での必要な床数

204床	4,877床	426床
令和8年度時点での必要な床数 5,507床		

既設特別養護老人ホーム 5,175床 (既存床数×稼働率)	122床	※ 想定不足数 210床
令和8年度時点での稼働想定床数 5,297床		

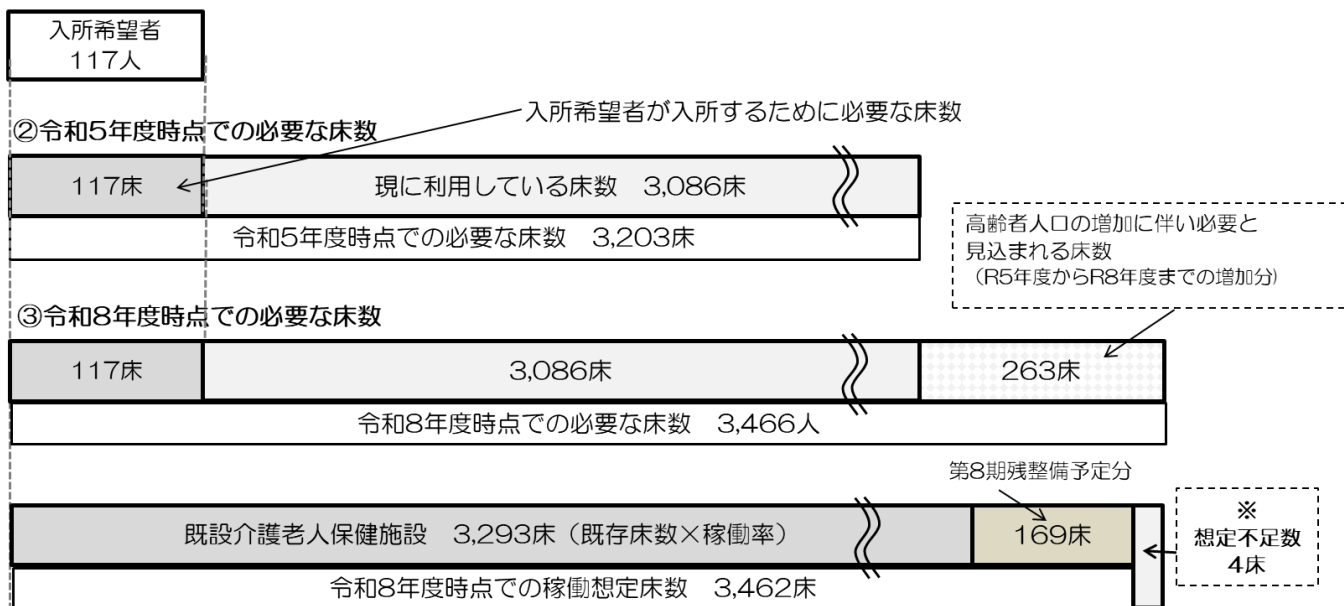
第8期残整備予定分

※令和8年度想定不足数 210床に稼働率を割り戻した数≒222床

222床≒230床=整備量の目標とする。

【介護老人保健施設】

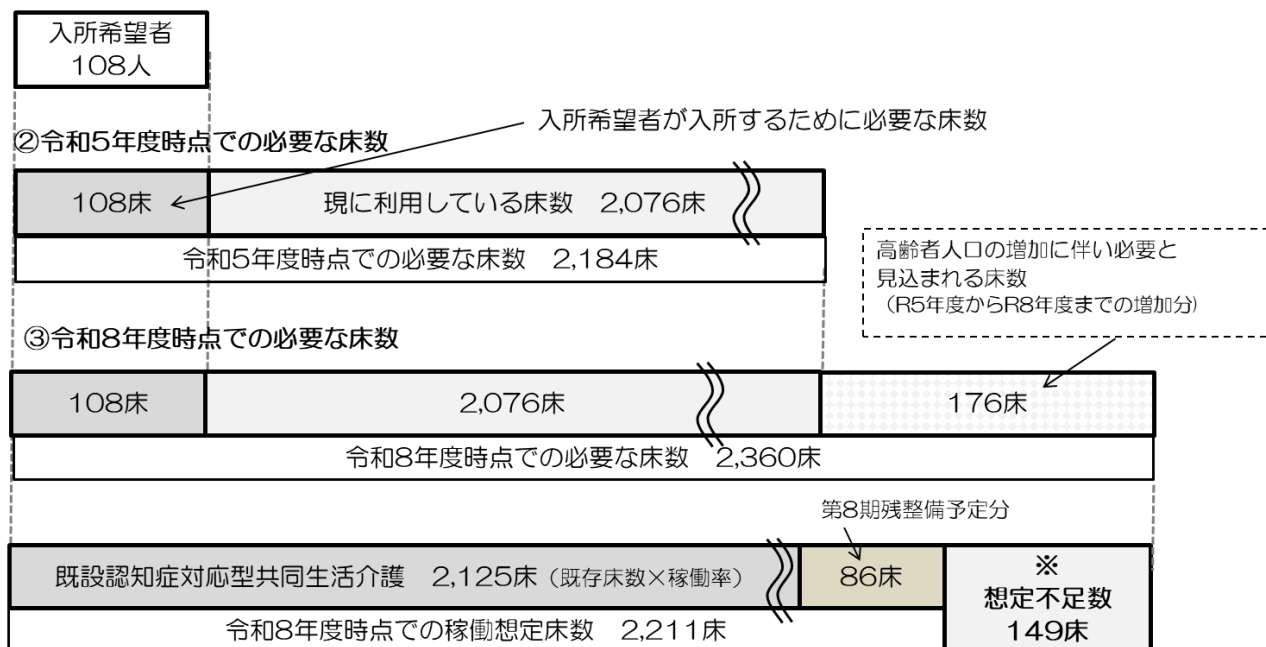
①介護老人保健施設の入所希望者



※令和8年度想定不足数4床に稼働率を割り戻した数≒4床
4床=4人分の不足となるが、現在の待機期間や利用状況を踏まえ、
第9期においては整備を行わない。

【認知症対応型共同生活介護】

①認知症対応型共同生活介護の入所希望者



※令和8年度想定不足数149床に稼働率を割り戻した数≒155床
155床≒162床=162人分を整備量の目標とする。
(※1ユニット9床単位想定で切り上げ)

【特定施設入居者生活介護】

①特別養護老人ホームの入所希望者のうち有料老人ホームに入所しても良いと考えている人数

48人

②「他施設」に入所しても良いと考えている人数

77人

③「現状の生活」が良いと考えている人数

※可能な限り現状の生活を望んでいるが、特養申込をしていることから、状況に応じ施設入所を検討。

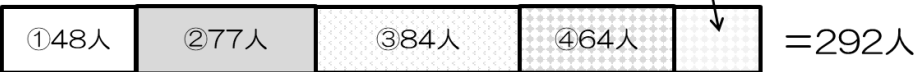
84人

④特例入所対象外的人数

64人

○特定施設入居者生活介護の整備目標数

要介護認定の伸び率分：19人



特別養護老人ホームの入所希望者のうち「他施設でも良い」：548人の内訳

早く入所したいが他施設も可 130人
 老健：51人、GH：26人、
 ①有料：14人、②他施設：26人
 ③現状の生活：13人
 将来の入居意向 246人
 老健：133人、GH：38人、
 ①有料：20人、②他施設：14人
 ③現状の生活：41人
 希望時期不明 172人
 老健：68人、GH：23人、
 ①有料：14人、②他施設：37人
 ③現状の生活：30人

※292人≒300人分を整備量の目標とする。

2. 特別養護老人ホーム入居希望者向けアンケート調査の概要

調査対象：令和5年4月1日現在、特別養護老人ホームに入居申込している仙台市民1,141人

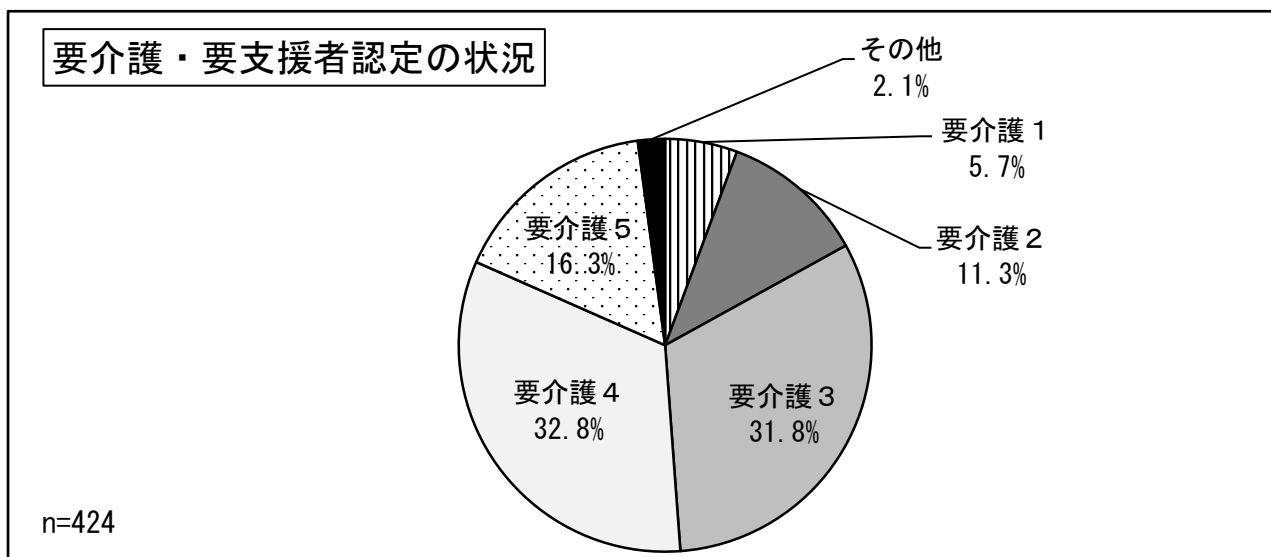
※令和5年4月1日時点で1,210人が対象であったが、4月以降に亡くなられた方や市外転居された方、すでに入居された方の69人を除いた1,141人を対象とした。

実施方法：調査対象者へ調査票を直接送付することにより実施

実施時期：令和5年7月4日～同年7月26日

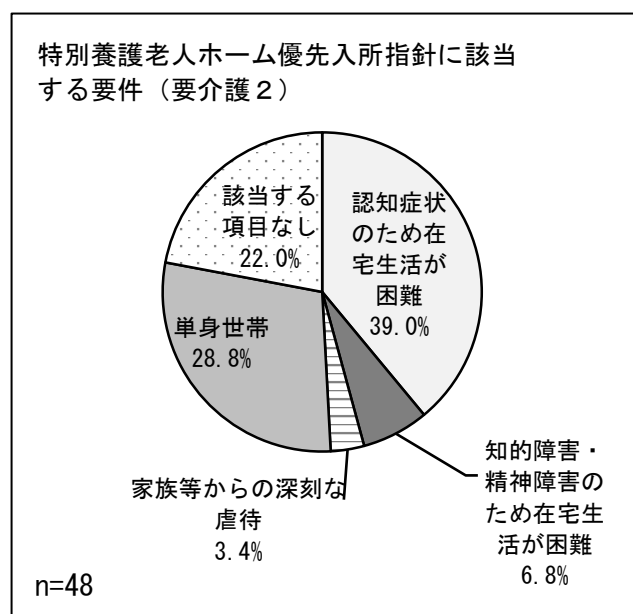
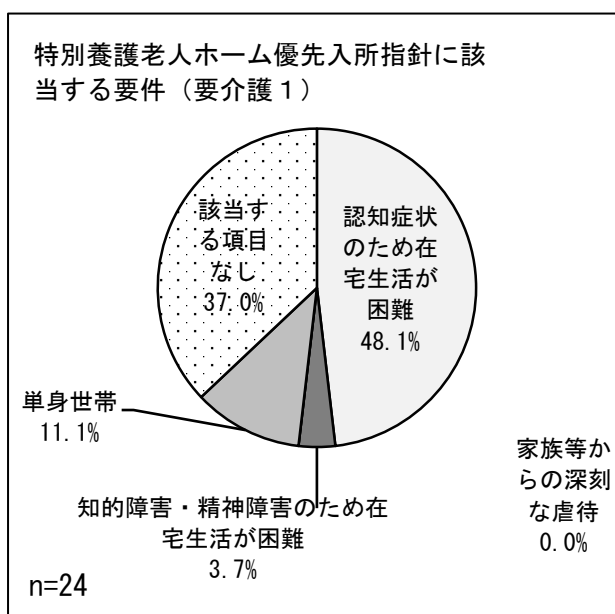
■ アンケート調査回答者内訳

有効回答者数：424人（回答率：37.16%）



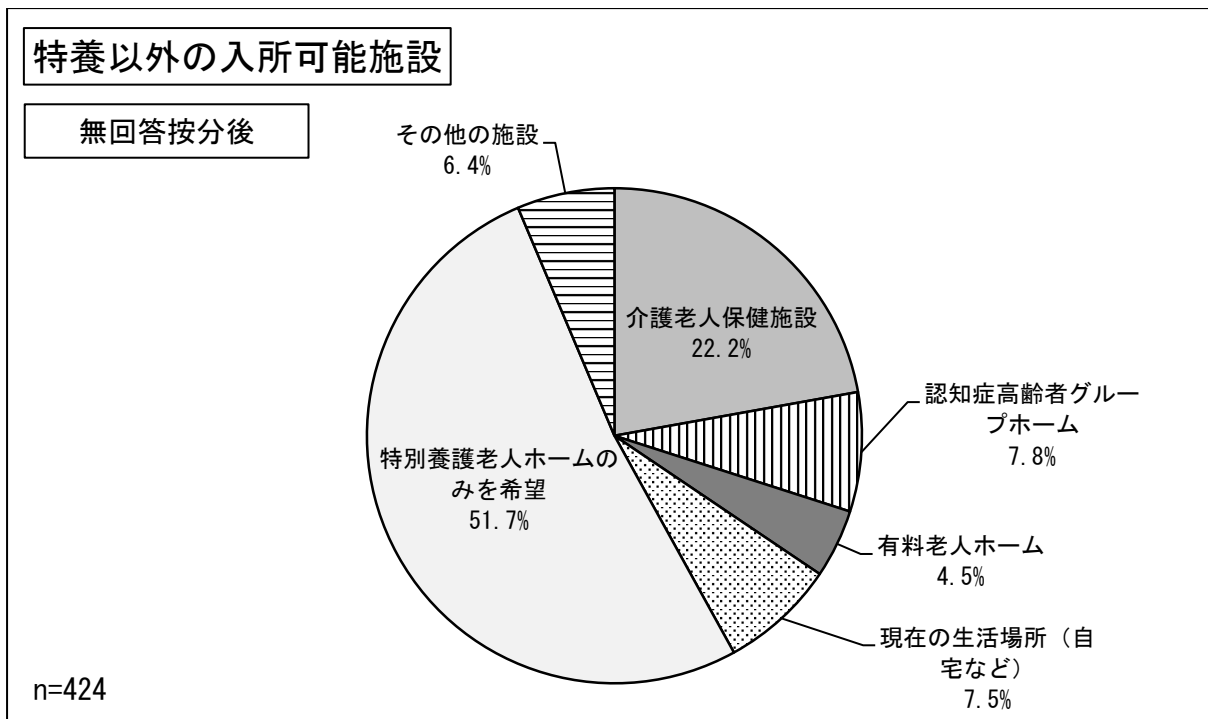
■ 特別養護老人ホーム特例入居指針の要件の該当者（複数回答あり）

特例入居指針の要件に該当する状態にあると回答した方は下表の通り。



■ 特別養護老人ホームのみに入居を希望する方、他の施設でも良い方の割合

各希望は下表のとおり。



■ 特別養護老人ホーム入居に対する希望（入居時期に関する希望）の割合

上記「特別養護老人ホームのみを希望」の方の各希望は下表のとおり。

